

石井正則

インタビュー

Comedy × Book × Stage

Masanori ISHII interview

「自分を知るために、
とりあえずやってみる」



お笑い芸人から俳優へ きつかけはすべて「ご縁」

——お笑い芸人を目指されたきっかけは?

「バラエティー番組が好きで、高3のとき、急に、この世界に入りたい!って思つちゃつたんです。友達はみんな就職する中で事務所に入ったんですが、舞台に立てない人はどんどん辞めていて、僕と相方だけが余つちゃつた。それで、お前らとりあえず組め!と言られてライブに出たんです。コンビ名は『まにあわせ』(笑)。意外と笑いが取れたから続けることになつて、コンビ名を考えなくちゃいけないから、部屋の中にあるものを片つ端からメモしていくんです。その中に太宰治の『きりぎりす』が入つていた。それを見た担当者が、ちっちゃいのと大きいのだから、アリtoキリギリスでいいじゃん、はい決まり!、という感じで動き出しました(笑)」

——その後、バラエティー番組『ボキヤブラ天国』でのブレイクがきっかけで、テレビドラマ『古畑任三郎』に出演されたんですよね。

「三谷幸喜さんが『ボキヤブラ天国』での僕を気に入つて声をかけてくださいました。それまで俳優をやりたいという気持ちちは

全くなかつたですね。思えば、アニメの声優も、ナレーションも朗読も、やってみない?、と声をかけていただいたことがきっかけ。自分のことつて分からなかつたら、最初から決めつけないで、ご縁があれば、とりあえずやってみます。結果的に、自分では思つてもみなかつたお仕事ができるようになつて、周りの人々が、僕らしさを見出してくれてます。」

——俺は芸人だ!ってこだわっていたら、今の僕はなかつたかもしません

好きなものに出会うコツは 気軽にやつてみて

——お仕事も幅広い石井さんですが、喫茶店巡り、自転車、フィルムカメラ、読書など、その多趣味、ぶりも注目されています。その多趣味、ぶりも注目されています。

——お仕事も幅広い石井さんですが、喫茶店巡り、自転車、フィルムカメラ、読書など、その多趣味、ぶりも注目されています。その多趣味、ぶりも注目されています。」

——5年ぶりの春日井公演となる「Sound of Story」は歌とピアノ・パーカッションとの共演による新感覚の朗読劇。石井さんが思う朗読の魅力を教えてください。

小説は設計図 朗読は建物を建てること

「朗読って、写真を撮ることと似ているんです。全く同じ小説や被写体でも、読み手やカメラマンによって印象が大きく変わることあります。小説という設計図をもとに、建物を建てていく感覚なんです。ただ文字を読んで読み方や、リズムや音色、色々な要素を組み合わせて、舞台上に立体的な情景を立ち上げていくのが一番面白いところです。会場の空気によつても、生まれる情景は全く違うものになります。初演の時も、東京と春日井ではお客様の反応が違つたのが興味深かったです。今回も春日井のお客様と一緒に、一から新しい舞台を作つていいくのがとても楽しみです」



宝くじ文化公演
石井正則 Sound of Story
~朗読と音楽で綴るコンサート~
2020/2/16㈰ 13:00~



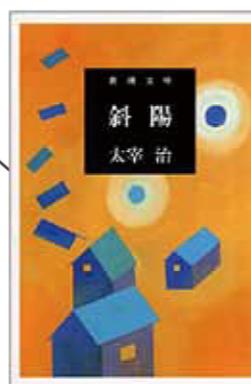
詳細情報は、裏表紙で **Ticket Guide**

石井さんの思い出の一冊

『斜陽』

太宰治／新潮文庫

コンビ名の由来でもある太宰は全て読んでいますが、一番好きで何度も読み返しているのが「斜陽」。太宰の自己表現と、読者を楽しませようというエンターテインメント性がいちばん拮抗している作品だと思います。



俳優・タレントの石井正則さん。お笑いコンビ「アリtoキリギリス」としてデビューして以来、俳優、ナレーター、声優と、多方面で活躍されています。2015年に大好評だった朗読公演の再演を前に「気になつたら、とりあえずやってみる」という石井さんの生き方や、朗読の面白さについて伺いました。